

第3期 根室市子ども読書活動推進計画

読書でこころの「根」を伸ばし、ともに^{へや}つくる 輝ける「室」



根室市教育委員会

〇〇 第3期根室市子ども読書活動推進計画 目次 〇〇

読書でこころの「根」を伸ばし、ともにつくる 輝ける「室」^ね^{へや}

はじめに

第1章 計画策定の基本的な考え方	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の対象	1
3 読書活動の対象	2
4 計画の期間	2
第2章 根室市の子どもの読書をめぐる現状と課題	3
第3章 計画の基本的な方針と目標	11
1 基本方針	11
2 基本目標	11
第4章 推進のための具体的な取り組み	12
1 家庭における子ども読書活動の推進	12
2 地域における子ども読書活動の推進	14
3 保育所・幼稚園・認定こども園における子ども読書活動の推進	16
4 学校における子ども読書活動の推進	17
5 図書館における子ども読書活動の推進	19
第5章 推進体制の整備・充実	22
1 関係機関等との連携・協力体制の充実	22
2 推進体制の整備	23
3 啓発・広報活動の推進	24

<資料編>

「根室市子ども読書活動推進計画アンケート調査」集計結果

<<参考資料>>

- ・子どもの読書活動の推進に関する法律（文部科学省）
- ・第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」概要（文部科学省）
- ・第3期根室市子ども読書活動推進計画策定市民会議設置要綱
- ・第3期根室市子ども読書活動推進計画策定市民会議委員名簿

はじめに

未来を担う根室市の子どもたちが、変化の激しい社会の中においても柔軟に対応しながら、心豊かに生きていくために、読書は大切な役割を担っています。

読書活動を通じて、子どもたちはさまざまな考え方を学び、自分で考え、自分の言葉で表現する力を身に付けることができます。

また、将来の予測が困難で複雑な時代においても、子どもたちが言葉を大切にしながら、新たな価値観を創造していくことができるよう、読書を通じて輝ける未来に向かってすこやかな成長を支えていくことが大切ではないでしょうか。

根室市の子どもたちがよりよい人生を生きるために、幼いころから本に親しみ、読書を生涯の友とするため、「第3期根室市子ども読書活動推進計画」を策定いたしました。

これからも子どもたちの読書意欲が向上するよう、あらゆる場所に読書の種をまき、家庭・地域・学校・図書館などが一体となって連携を図り、市民の皆様とともに、子どもたちの読書環境づくりに取り組んでいきたいと考えております。

最後に本計画の策定にあたり、「第3期根室市子ども読書活動推進計画策定市民会議」の委員の方をはじめ、貴重なご意見、ご提言をいただきました多くの皆様に心から厚くお礼を申し上げます。

令和7年3月

根室市教育委員会



第1章 計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の趣旨

近年、情報通信技術の急速な進歩に伴い、スマートフォンやタブレット端末、ゲーム機などの機器や、SNSを始めとしたソーシャルメディアが急速に普及・多様化し、子どもを取り巻く環境が大きく変化しています。

情報通信機器の利用時間も増加傾向にあり、子どもたちの読書離れが懸念されています。

このような状況の中で、発達段階に応じた読書機会を得て、読書に親しむ習慣を身につけることができるよう、家庭・地域・学校・図書館などが連携しながら、子ども達の読書活動を支えていくことが重要です。

また、子どもにとって読書は、言葉・感性を磨きながら、表現力・創造力を豊かなものにしてくれるものであり、人生をより深く生きる力をつけていく上で欠くことができないものです。

国においては、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定、平成14年8月には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、おおむね5年ごとに新たな計画を策定しています。

北海道においても、令和5年3月に第5次計画を策定し、道内における子どもたちの読書活動の一層の推進を図っています。

根室市においても、国及び北海道の子どもの読書活動推進の方針を基本とし、地域の実情等を踏まえながら、平成25年2月に「根室市子ども読書活動推進計画」を策定、令和2年3月には「第2期根室市子ども読書活動推進計画」を策定して、子どもたちの自主的な読書活動を推進してきました。

これまでの計画実施の中で見えてきました課題や反省点を考慮した形で、社会及び地域の状況変化も加味しながら、新たな5か年の方向性を示すため「第3期根室市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもたちがあらゆる機会とあらゆる場所において、自ら本と親しみ、本を楽しむことができるさらなる読書活動環境づくりを進めていきます。

2 計画の対象

この計画の対象である子どもは、0歳からおおむね18歳までとします。

3 読書活動の対象

この計画の対象である読書活動は、活字その他文字を用いて表現された図書などを言います。電子書籍を含む電子資料も該当します。

4 計画の期間

この計画の期間は、令和7年度～令和11年度までの5年間とし、必要に応じて計画の見直しを行います。



第2章 根室市の子どもの読書をめぐる現状と課題

(「根室市子ども読書活動推進計画アンケート調査」調査結果の分析より)

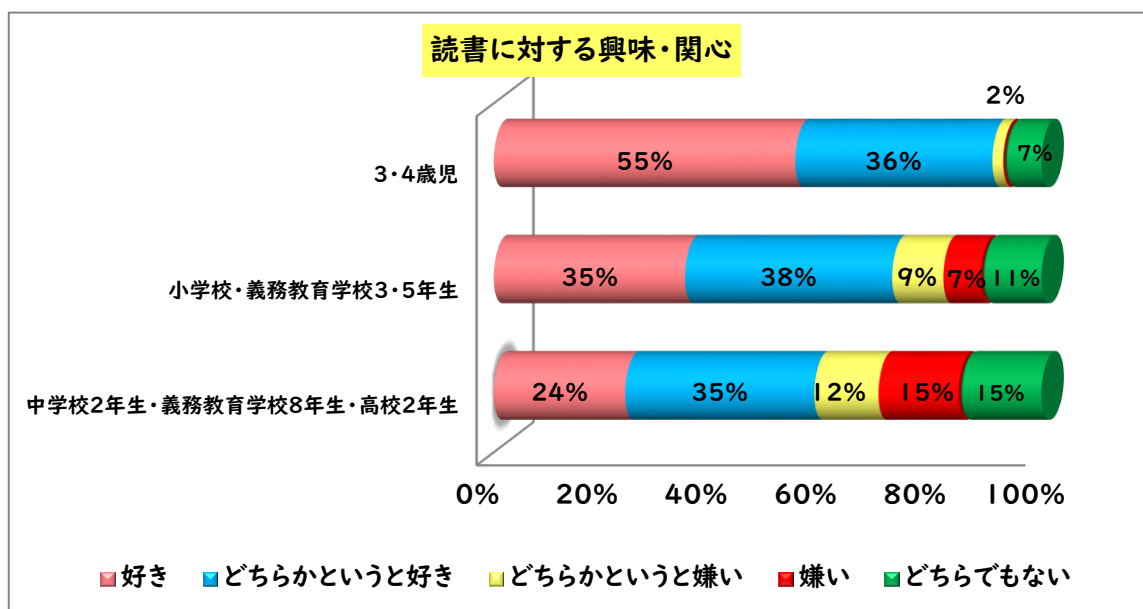
1. 根室の子どもたちの読書に対する興味・関心

3～4歳児(保護者回答)の91%、小学校・義務教育学校3・5年生の73%が、「本を読むことが好き」「どちらかという好き」と答え、幼児期・小学校・義務教育学校3・5年生の多くの子どもが、本に親しみ、読書好きであるということがわかります。

中学校2年生・義務教育学校8年生・高校2年生では、58%が「読書」が「好き」「どちらかという好き」と回答しています。

幼児期から小・中学校・義務教育学校・高校生と年齢を重ねるごとに読書離れが進んでおり、中学校2年生・義務教育学校8年生・高校2年生の約6割が読書好きを維持しているものの、読書意欲の定着には課題があります。

子どもの読書習慣を継続させていくために、発達段階に応じた様々な読書機会を提供していくことが求められています。



2. 根室の子どもたちの「読書傾向」

3～4歳児では「絵本」が1番多く読まれ、家族、保育士など読み聞かせによって、読書を身近なものにしています。

幼児期には読み聞かせによって読書に親しむことで、本と出会い、楽しみを味わうことが大切です。

小学校・義務教育学校3・5年生の読書傾向では、「マンガ」「物語」が多く、続いて「絵本」「スポーツ・趣味」となっています。

読み聞かせから自分で本を読むことに移行し、自分で本を選ぶようになりますが、この時期は幅広いジャンルの本に親しむことが大切であり、より多様な本との出会いの機会と環境を作ることが必要です。

中学校2年生・義務教育学校8年生・高校2年生においても、「マンガ」が1番多く、「小説・物語」「スポーツ・趣味」と続いています。

また、高校生になると「電子書籍」も利用するようになっていくようです。こうした時期に読書習慣を身に付けることができると、生涯にわたって読書に親しむことができるようになります。

読書が生き方や社会との関わり方を支えてくれることを実感するため、読書の幅を広げ、読書への関心を高めるため、12歳から18歳において多くの本に親しみ、感動する本と出会うことができるよう、読書環境づくりと読書推進を一層進めていくことが大切です。

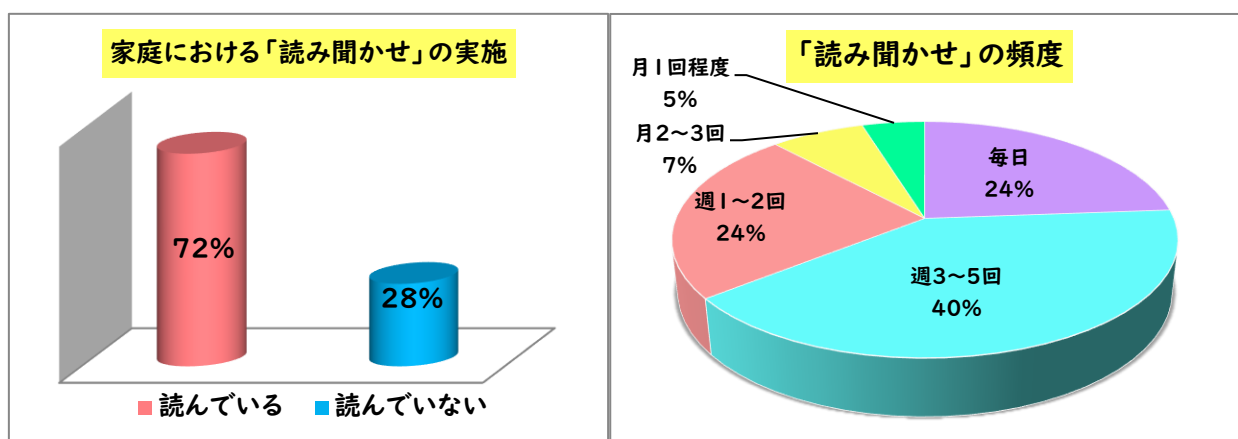
好きな本の種別ランキング	1	2	3	4	5
3～4歳児（保護者）	絵本	図鑑	ものがたり	迷路・クイズの本	その他 (キャラクターの本)
小学校・義務教育学校 3・5年生 児童	マンガ	物語	絵本	スポーツ・趣味	図鑑
小学校・義務教育学校 3・5年生 保護者	マンガ	小説・物語	スポーツ・趣味	雑誌	新聞
中学校2年生・義務教育 学校8年生・高校2年生	マンガ	小説・物語	スポーツ・趣味	電子書籍	歴史

3. 根室の子どもたちの「読書時間」・「読書冊数」

3～4歳児家庭の72%で読み聞かせが行われており、読み聞かせの頻

度は「週3～5回」40%、「毎日」24%、「週に1～2回」24%と読み聞かせが行われている家庭では、子どもが本に触れる機会が多いことがわかります。

一方、約3割弱の家庭が読み聞かせをしていない状況であることがわかりました。その過半数を占める理由が「忙しいため、読み聞かせをする時間が持てない」との回答でした。



「1日の家での読書時間」について、小学校・義務教育学校3・5年生児童の約6割が「15～30分程度」です。約3割弱の児童が「まったく読まない」を選んでいます。

前回の調査の「まったく読まない」が約2割弱だったため、本を全く読まないという児童が約1割増えてしまいました。

1番多い「読書をしない理由」は、「習い事で忙しい」であり、次いで「家にあまり本がない」でした。

このことから、本を読むことができていない児童が多忙であることや、本を読む環境が整っていないことがわかります。

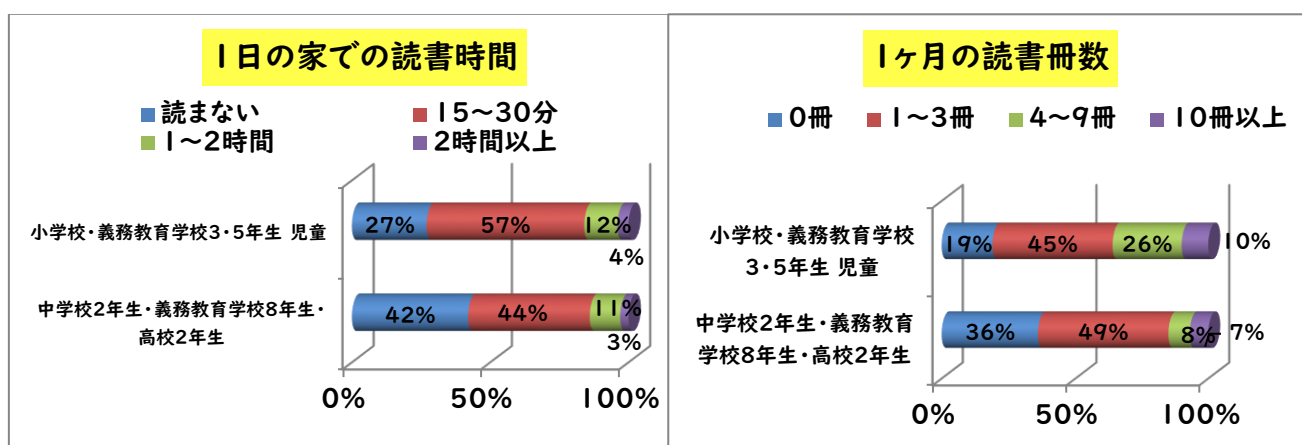
中学校2年生・義務教育学校8年生・高校2年生における1日の家での読書時間は、「15～30分程度」を選ぶ生徒が44%いる一方で、42%の生徒が「まったく読まない」を選んでいます。これは、小学校・義務教育学校3・5年生児童の割合から15%増えており、年代が上がるにつれて本を読まない子どもが増えていることがわかります。

「読書をしない理由」で1番多く選ばれたのは「本はつまらない」、2番目が「本を読むのが苦手」、3番目が「読みたい本がなかった」であり、読書が面白いと感じていないことや、読書への苦手意識を感じてしまっているこ

と、読書環境が整っていないことが中心となっています。

なお、高校2年生の1番の「読書をしない理由」は「パソコン・スマートフォンを観たい」であり、デジタルメディアへの興味・関心が増し、読書の優先順位が低くなっていることがわかります。

中学校2年生・義務教育学校8年生・高校2年生においては、読書への関心を高めることが課題であり、読書離れを防ぐために、多角的に子どもたちに読書の魅力を伝えていく必要があります。



4. 根室の子どもたちの「読書の間」

3～4歳児保護者の7割以上が「読み聞かせをしている」と答え、9割以上が1カ月のうちに「子どもが本に触れていることがある」と答えています。

併せて、小学校・義務教育学校3・5年生保護者の100%が「読み聞かせ経験がある」と答えており、7割以上が0～1歳の頃に「読み聞かせをしたことがある」と答え、根室市の家庭では、早い段階で読み聞かせが始められていることがわかります。

小学校・義務教育学校3・5年生の約3割が「家の中」を読書の間として選んでおり、その次に「学校図書館」「学校の休み時間」「学校の朝読書の時間」が選ばれており、読書の間として家庭・学校が重要な役割を果たしていることがわかります。

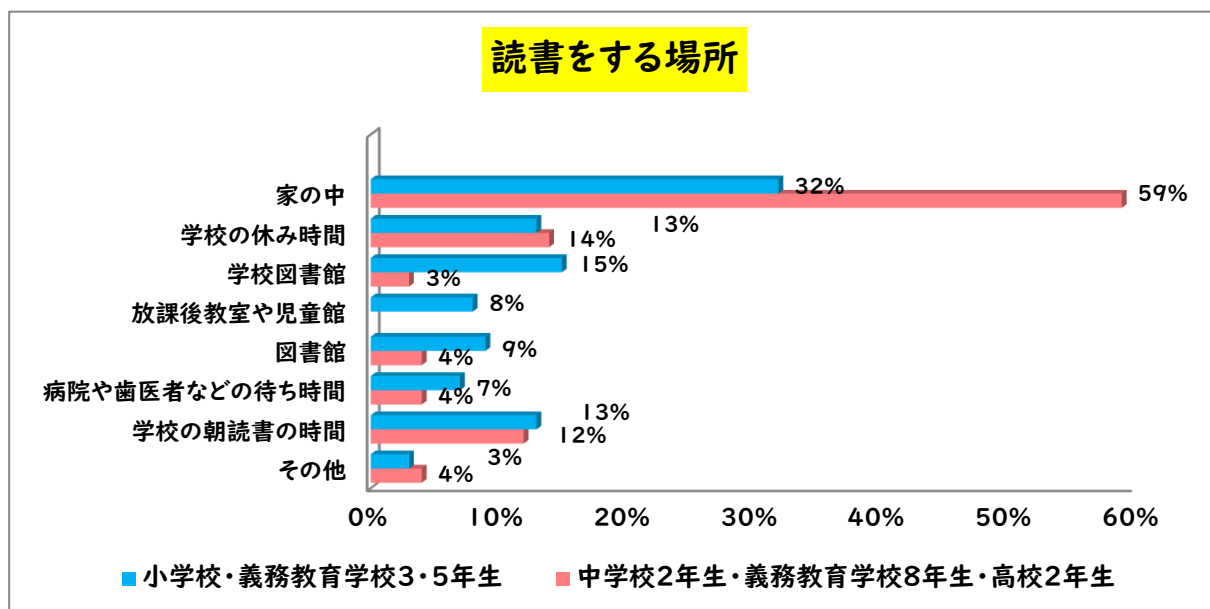
中学校2年生・義務教育学校8年生・高校2年生では約6割が読書の間として「家の中」を選んでいます。

学校図書館に関するアンケートでは、小学校・義務教育学校3・5年生の6割以上が「学校図書館に行く」と答えていますが、中学校2年生・義務教育学

校8年生・高校2年生では「学校図書館に行く」と答えた生徒は4割弱となっており、年齢が上がるにつれて、学校図書館に行かない子どもが増えていることがわかります。

小学校・義務教育学校3・5年生の学校図書館に行かない理由で1番多く選ばれたのは、「読みたい本が少ない」、次いで「行く時間がない」という回答でした。中学校2年生・義務教育学校8年生・高校2年生では、「行く時間がない」が1番に選ばれ、次いで「読書に興味がない」「読みたい本が少ない」となり、多忙が1番の理由となっています。

学校図書館に行く機会がもっと増えるよう、学校図書館の蔵書を充実させて魅力的な本を揃えることや、学校生活の中で本に触れる機会を増やすことが課題となっています。



5. 根室の子どもたちの「本との結びつき」

3～4歳児家庭、中学校2年生・義務教育学校8年生・高校2年生の本の入手方法の1番は「購入」で、3～4歳児家庭では約5割、中学校2年生・義務教育学校8年生・高校2年生では約7割と多くの割合を占めています。

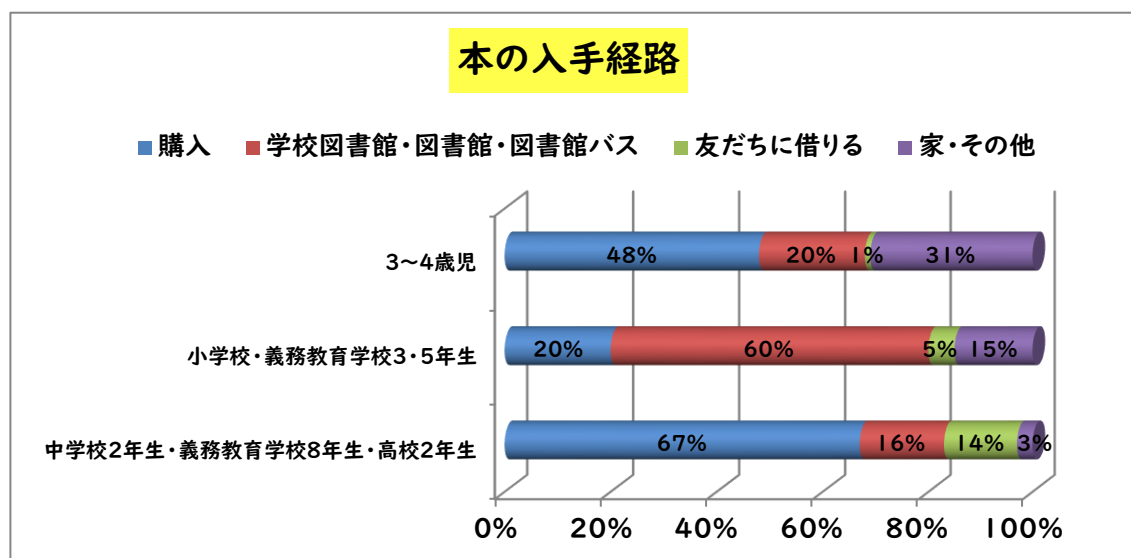
小学校・義務教育学校3・5年生児童では6割が「学校図書館・図書館・図書館バスで借りる」となっており、前回の調査より2割程度も増えており、

この年代では学校図書館・図書館・図書館バスの重要性が増しているといえます。その中で1番多いのが「学校の本から選ぶ」であり、学校の役割が大きいことがわかります。学校に通うことにより子どもの読書環境が広がりをみせていることがわかります。

3～4歳児家庭では3割程度が「家にある本を読む」であり、保護者が購入した本を読んでいることから、家庭の読書環境が大きく影響していることがわかります。

中学校2年生・義務教育学校8年生・高校2年生では、自分の好みの本を購入するようになっていると考えられます。

年代別に読書環境が「家庭」から「学校」「図書館」、「書店」へと広がっていくため、年代に合わせた効果的な働きかけをしながら、読書の世界を深く楽しむことができるよう、読書環境を整えていくことが大切となってきます。



6. 根室市民が考える「読書の大切さ」

3～4歳児保護者の99%が、「子どもが本を読むことが大切だと思う」「どちらかといえば思う」と答えています。「思わない」は0%です。

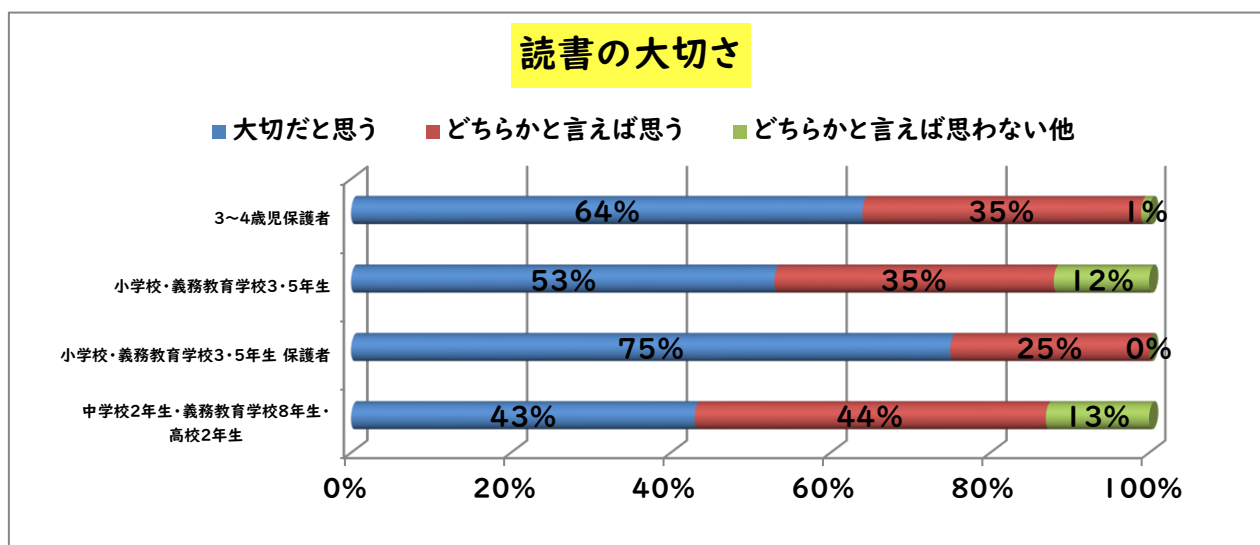
3～4歳児保護者の約7割が「読書が好き」「どちらとも言えば好き」と答えており、99%が「読書が大切だと思う」「どちらかとも言えば思う」と答え、幼

児がいる家庭において、読書の大切さが浸透していると言えます。

小学校・義務教育学校3・5年生児童の9割近くが「読書が大切だと思う」「どちらかと言えば思う」と答えています。読書の良さで1番多かったのは「知らないことがわかる」、次に「考える力がつく」であり、読書が好奇心を満たす知識の宝庫として、人生を豊かにしてくれるものと考えられていることがわかります。

小学校・義務教育学校3・5年生の保護者の100%が読書の大切さを認識しており、「読み聞かせ」の経験も100%あると答えており、読書への理解が深いことがわかります。

中学校2年生・義務教育学校8年生・高校2年生でも9割近くが読書の大切さを認識しており、読書の良さで1番多かったのが、「読んでいて楽しい」であり、次いで「知らないことがわかる」、「国語の力がつく」、「想像力がつく」と続いており、読書が楽しみながら生きる力を身につけるものと理解されていることがわかります。



7. 根室の子どもみんながもっと「本を読む」ために！

「どうすればみんなが、もっと本を読むようになると思いますか」との問いに、「小さい頃から本を読んでもらう」と答えたのは、小学校・義務教育学校3・5年生で22%、そして中学校2年生・義務教育学校8年生・高校2年生で26%と一番多くなっています。

次に、小学校・義務教育学校3・5年生、中学校2年生・義務教育学校8年生・高校2年生で同程度の20%以上が「学校で読書の時間をもっと増やす」となっており、学校への期待が大きくなっています。

小学校・義務教育学校3・5年生が3番目に選んだのが「図書館や学校で本を借りるなど利用回数を増やす」であり、図書館や学校図書館の利用向上も大きな役割があると考えられています。

中学校2年生・義務教育学校8年生・高校2年生が3番目に選んだのが「家庭で読書の時間をもっと増やす」であり、自主的な読書の大切さにも目を向けていることがわかります。

保護者の回答において、3～4歳児保護者で1番選ばれたのは「小さい頃から読み聞かせをする」であり、次いで「子どもの身近なところにいつも本を置く」が選ばれ、家庭での読書環境が子どもの読書意欲につながっていると考えられていることがわかります。

小学校・義務教育学校3・5年生保護者では、「小さい頃から図書館・図書館バスや、本屋に連れて行く」が一番に選ばれており、家庭からさらに図書館などへ読書環境を広げていくことが大切だと考えられていることがわかります。

こうしたみなさんからいただいた意見を反映しながら、根室市の子どもたちがかけがいのない読書体験を得ることができるよう、根室市全体で関係機関が連携して取り組み、子どもの読書習慣が身につけられる環境づくりを推進していく必要があります。

みんながもっと本を読むようになるためにはどうしたらよいか

	1	2	3
3～4歳児（保護者）	小さい頃から読み聞かせをする	子どもの身近な所にいつも本を置く	小さい頃から図書館・図書館バスや本屋に連れて行く
小学校・義務教育学校 3・5年生 児童	小さい頃から本を読んでもらう	学校で読書の時間をもっと増やす	図書館や学校で本を借りるなど利用回数を増やす
小学校・義務教育学校 3・5年生 保護者	小さい頃から図書館・図書館バスや本屋に連れて行く	小さい頃から読み聞かせをする	小さいころから本を話題にする
中学校2年生・義務教育 学校8年生・高校2年生	小さい頃から本を読んでもらう	学校で読書の時間をもっと増やす	家庭で読書の時間をもっと増やす

第3章 計画の基本的な方針と目標

1 基本方針

本計画は、国や道の計画において示された基本的方針に基づき、次に掲げる3つを、この計画の基本方針とします。

(1) 「本に出会う・親しむ」機会の創出

子どもが読書に興味や関心を持つきっかけを作り、読書を通した新たな発見や楽しみを味わいながら、読書が生活の中に定着するよう、家庭・地域・学校などにおいて、子どもの成長段階に応じた読書に親しむ機会の創出を図ります。

(2) 「本から学ぶ」環境の創出

子どもが読書を通じて豊かな感性や知性を伸ばしていくために、様々な興味や関心に応えられる豊富で魅力的な図書・資料の充実や、すべての子どもたちが活用しやすい読書環境の整備に努めます。

(3) 「本と生きる」活動の創出

子どもの主体的な読書活動を支えるため、図書館、学校、保育所、幼稚園・認定こども園などの関係機関が、その特性を生かしながら互いに連携・協力し、子どもの読書活動を推進するための具体的な方策や情報交換に努めます。

2 基本目標

上記3つの方針に基づき、当市の実情も踏まえて、次の4つの基本目標を設け、積極的な子ども読書活動推進の取り組みを図ります。

- (1) 家庭・地域における子ども読書活動の推進
- (2) 保育所・幼稚園・認定こども園・学校における子ども読書活動の推進
- (3) 図書館における子ども読書活動の推進
- (4) 関係機関、団体などとの連携・協力体制の充実

第4章 推進のための具体的な取り組み

Ⅰ 家庭における子ども読書活動の推進

子どもが幼い頃から本に触れるためには、生活の中心である家庭における読書活動を支援していくことが重要です。

子どもが読書に親しむきっかけを作るためには、家族のふれあいの中での読み聞かせや、子どもと一緒に本を読んだりすることで、家族の絆を深めながら読書の楽しさを味わうことが大切です。

根室市においては、多くの家庭で読み聞かせが行われており、おなかの中の赤ちゃんに語りかけるための絵本を贈呈する「マタニティブック事業」などを実施していますが、さらに家族で本に触れる時間を増やすために、家庭における子どもの読書に対する興味や関心を高める取り組みを進めていきます。

〔具体的な取り組み〕

① 読み聞かせ・子どもの読書習慣の定着

子どもが読書に興味を持つきっかけづくりのため、読み聞かせや家族と一緒に読書をするなど、家庭における読書活動を積極的に支援します。

新たな絵本との出会いのため、「9～10ヵ月児健康相談」、「1歳6ヵ月児健康診査」、「3歳児健康診査」時に、本を選ぶ際の参考となるブックリストを配布し、家庭での読み聞かせを推進します。

子どもの読書習慣の定着のため、図書館において読んだ本の冊数に応じてポイントを付与する「読書マラソン」などを実施し、子どもの読書活動への関心を高めます。

② 「子どもブックライフ応援事業」の推進

妊娠期間中に絵本を通して家族がふれあう機会を提供するため、母子健康手帳交付時に絵本を贈呈する「マタニティブック事業」を実施します。

続いて「9～10ヵ月児健康相談」の際に、読み聞かせの楽しさを伝えるため、親子に絵本を2冊贈呈する「ブックスタート事業」を実施します。

小学校・義務教育学校1年生には、読書への興味を高めるために「セカンドブック事業」として、読み聞かせ体験とともに本を1冊贈呈します。

さらに新しい取り組みとして、読書離れがすすんでいる中学校1年生・義務教育学校7年生に継続して読書への関心を高めるため、本を1冊贈呈する「サードブック事業」を実施します。

これらを「子どもブックライフ応援事業」と位置づけ、子どもの発達に応じた読書活動の機会の提供に取り組めます。

③ 親子読書のすすめ

乳幼児の保護者に絵本の良さを知ってもらい、読み聞かせの大切さと子どもの本の選び方などを伝えるため、図書館司書による「ふれあい絵本講座」を開催します。

また、絵本を選ぶ時間が取れなかったり、絵本選びに迷ってしまったりする保護者向けに、年齢別の乳幼児親子向け「絵本セット」を図書館で貸出するなど、読み聞かせが気軽に家庭で行うことができるような環境づくりを進めます。



2 地域における子ども読書活動の推進

地域には図書館・公民館・子育て相談所・放課後教室など、子どもが読書に親しめるように活動している施設があります。

こうした施設では、地域の人々との関わりを大切にしながら、それぞれの特性を活かして、子どもの読書活動を推進していく必要があります。

子ども向け屋内遊戯施設「ふるさと遊びの広場」(わんぱーく)では、絵本コーナーの設置や、おはなし会を開催するなど、家族で読書に親しめる環境づくりを進めています。

こうした地域における活動を更に充実させていくために、ボランティアと連携しながら読書活動を広げ、地域が一体となった魅力的な取り組みを推進します。

〔具体的な取り組み〕

① 子育て相談所における普及と推進

「つどいの広場クルクル」において、保育士による親子への絵本の読み聞かせを行います。

図書館とも連携して「乳幼児親子向けおはなし会」や、0歳から入学前の親子を対象に、図書館司書と保育士による「おはなし会」を開催し、親子と一緒に楽しむ豊かな読書体験の充実を図ります。

② ふるさと遊びの広場「わんぱーく」における推進

ふるさと遊びの広場「わんぱーく」において、図書館司書が選んだ絵本コーナーを設置し、親子が本にふれあう場を提供します。

子どもの読書活動への関心を高めるため、「わんぱーくおはなし会」を開催し、図書館司書による絵本・紙しばいの読み聞かせなどを行います。

③ 公民館における推進

イベントの際に親子などで利用する幼児室に絵本を配置します。

子育て相談所と連携して開催する子育て教室「あそびの広場」において、絵本の読み聞かせを行い、親子が本に親しめる機会を提供します。

④ 放課後教室などにおける推進

図書館バスの本などを活用し、児童が自由に読書できる図書コーナーを設置し、読書活動の環境づくりに努めます。

読書時間の設定や、指導員・図書館司書による読み聞かせを行い、子どもたちが読書を身近に感じることができるよう活動を積極的に行います。

⑤ ボランティアとの連携・協力

子どもたちへの読み聞かせなど、ボランティアと連携・協力しながら地域全体で読書活動の推進に取り組みます。

ボランティア団体・読書会などとも連携して、子ども読書活動支援の充実を図ります。



3 保育所・幼稚園・認定こども園における子ども読書活動の推進

保育所・幼稚園・認定こども園では、乳幼児期における読書の楽しさを知ることができるよう、様々な工夫をしていくことが大切です。

子どもの豊かな心を育むために、年齢に応じたさまざまな本との出会いができるよう、絵本の読み聞かせを積極的に行い、多くの本にアクセスできるよう環境の整備を進めていく必要があります。

子どもが絵本や物語に触れる機会が多様になるように、図書館や図書館バスを利用して、本に対する興味や関心を高めています。

今後も保育所・幼稚園・認定こども園において、子どもたちが安心して本に触れることができるよう、積極的に読書の環境づくりを進めます。

〔具体的な取り組み〕

① 保育所・幼稚園・認定こども園の読書環境の整備と充実

保育所・幼稚園・認定こども園に設置している図書の整備を進め、本を通じて心がふれあうきっかけの場を提供します。

定期的に巡回している図書館バスも活用し、クラスごとに子ども達が自由に読むことができる本を設置し、読書環境の充実に努めます。

② 保育士・幼稚園教諭による子ども読書活動の普及

保育所・幼稚園・認定こども園において、さまざまな機会に行事や季節などに合わせた子ども達への読み聞かせを積極的に行い、乳幼児期に読書の楽しさを知ることができるよう取り組みます。

③ 読書の大切さについての家庭への理解促進

参観日や保護者が参加する行事、おたよりなどを通じて、子どもの読書活動に対する理解や関心を高めます。

図書館や図書館バスなども活用し、家庭への本の貸出を行いながら、読書活動を支援します。

4 学校における子ども読書活動の推進

子どもが生涯にわたって読書に親しみ読書の習慣を身につけていく上で、学校は重要な役割を担っています。

子どもの豊かな読書経験のために、学校では朝読書などの読書活動を行っていますが、多様な子どもに対応した読書活動を推進するために、様々な興味・関心に応える魅力的な学校図書館資料を充実させ、学校図書館利用の活性化を図っていく必要があります。

図書館の資料も活用しながら、学校全体で子どもたちの実りある読書のために、新たな考え方に出会える読書体験の機会を増やしていきます。

〔具体的な取り組み〕

① 「朝の読書」の推進

授業前の時間を活用して「朝の読書」に取り組むとともに、図書館や図書館バスの本も活用しながら、各クラスにおいて児童生徒が図書を手に取りやすい環境づくりを進めます。

② 学校図書館の整備・充実

学校図書館の図書購入予算の確保に努め、資料の更新を行いながら、図書館資料の整備充実を図ります。

蔵書のデータベース化と併せ、根室市図書館システムとの連携に向けた環境整備を図ります。

③ 学校図書館活用の推進

図書館司書や図書委員会などと連携しながら、本や棚の配置・展示等を工夫して利用促進に努め、学校司書の配置に努めます。

学校図書館に新聞を複数配備し、授業の調べ学習などにおける学校図書館の積極的な活用を進めます。

④ 教職員意識の高揚

司書教諭が中心となり読書活動に関する指導や、授業における学校図書館の活用などを積極的に行い、児童生徒の主体的・意欲的な読書

活動を進めます。

⑤ 保護者・家庭への働きかけ

学校図書館資料の受入れや読み聞かせ活動などに、PTA や地域ボランティアと協力して取り組みます。

学校便りや学級通信、PTA 広報誌なども活用し、読書の大切さについて家庭に働きかけながら、読書の重要性への保護者の理解を図ります。



5 図書館における子ども読書活動の推進

図書館は子どもが本を通じて世界を広げ、人生を豊かにしていくために大切な役割を担っています。

子どもから大人まで市民が交流できるまちづくりの拠点として、子どもの気持ちに寄り添った読書活動を推進するために、魅力的な読書環境の整備・充実に努め、子どもに読書の楽しさを伝えるための取り組みを進めていきます。

根室の子ども達が人生の糧になるかけがえのない1冊を見つけて、読書の喜びを知ることができるよう支援していきます。

〔具体的な取り組み〕

① 子ども・親子が利用しやすい図書館環境づくり

季節や行事などに合わせた「おすすめ絵本コーナー」や、ぬりえ・工作コーナーの設置、「パパ・ママのための子育て本コーナー」など、親子で図書館に親しみながら、読みたい本に出会うことができる展示を行います。

誰もが安心して利用できるよう、バリアフリー資料「りんごの棚」コーナーを設置し、読書支援サービスの充実やバリアフリーに配慮した資料である「点字付き絵本」・「さわる絵本」・「布絵本」などを積極的に整備します。

中学生や義務教育学校（後期）・高校生などが読書を身近に感じることができるような展示を行い、学習室の活用も促します。

② 年代別図書・資料の充実

「乳幼児向け絵本コーナー」から「十代の本棚」など、年齢・発達段階に応じた資料の展示を行い、子ども達にとって魅力的な資料の提供と読書への興味や関心が高まるよう、幅広い図書館資料の収集に努めます。

③ 図書館バス利用サービスの充実

読書をより身近に感じることができるよう、保育所・幼稚園・認定こども園、学校・放課後教室などを定期的に巡回しながら、各施設の読書活動支援に努めます。

初めて図書館バスを利用する子ども達のために、小学校・義務教育学校1年生を対象にした「図書館バス利用ガイダンス」を実施し、図書館バ

スの利用を活性化します。

④ 「子どもブックライフ応援事業」講演会の開催

本や物語の楽しさをより感じることができるよう、「絵本作家講演会」や本のヒーローによる「絵本ヒーローショー」、人形劇団による「人形劇」を開催し、子どもたちの心に響く読書活動の機会を提供します。

⑤ 「おはなし会」の開催と読み聞かせの普及

家族や友達などと一緒に本の楽しみを共有できるように、0～3歳の親子を対象とした「ちいさい子のおはなし会」、幼児～小学生を対象に「土曜おはなし会」を開催します。

図書館ボランティアとも協力し、プログラムに手遊びなども取り入れながら、SNSなども活用し広く参加を呼びかけます。

⑥ 「こどものつどい」など集会行事の開催

季節に合せた絵本・紙しばいの読み聞かせや、工作などのプログラムを通じて、参加者同士が心を通わせながら物語の楽しさや、図書館への親しみを味わうことができるよう「こどものつどい」を開催します。

⑦ 図書館訪問や「調べ学習」などの学習支援

子ども達が図書館を身近な場所として感じることができるよう、保育所・幼稚園・認定こども園・学校などの図書館訪問を受け入れます。

さまざまな「調べ学習」に対応できるよう資料の充実を図りながら、図書館司書が子ども達の「調べ学習」の支援を行います。

⑧ 「学級文庫ブックバンク事業」による団体貸出の推進

学校生活の中で、子どもの読書への興味・関心を喚起するために、学級への団体貸出でポイントが貯められる「学級文庫ブックバンク事業」を実施し、子ども達の読書意欲が高まるよう、団体貸出を推進します。

⑨ 「読書推進学校等訪問事業」の実施

図書館司書が学校などを訪問し、読み聞かせやテーマに沿った本を紹介するブックトークなどのプログラムで、新たな本との出会いの場を提供し

ます。

⑩ 学校図書館の支援充実

図書館司書が学校図書館を定期的に訪問し、展示や運営等のアドバイスをを行う「学校図書館巡回図書事業」を実施します。

新たに「学校図書館ステップアップ事業」として、学校図書館改善や図書館資料の選書などを通して、図書館司書が学校図書館運営を支援します。

⑪ 「親子読書会」の発会と育成

小学校・義務教育学校1・2年生親子を対象として、昭和47年から45年間続いている、親子がふれあいながら本から広がる楽しさや、体験の機会を提供している「1・2年生親子読書会」を継続して発会します。

小学校・義務教育学校3年生以降も図書館ボランティアと協力しながら毎月の例会を開催し、絵本の読み聞かせなどの活動を支援します。

⑫ 広報活動

子どもの読書に関するイベントや、おすすめの本の紹介など「図書館ニュース」やホームページ・SNS などを通じて情報の発信を行い、図書館の利用を促進し、読書への興味を喚起します。

⑬ 図書館システムの更新

人と人が情報技術の進化によって繋がる ICT 環境のニーズに広く対応するために、定期的なシステムの更新に努め、利便性の向上と図書館システム機能の充実を図ります。



第5章 推進体制の整備・充実

Ⅰ 関係機関等との連携・協力体制の充実

子どもの読書活動の推進を図るためには、様々な場面において子どもと本を結ぶことが大切です。

そのために、関係機関である保育所・幼稚園・認定こども園、学校、図書館、公民館、放課後教室などが相互に情報交換や交流を深める必要があります。

子どもの読書活動のさらなる充実のため、関係機関が連携・協力しながら、子ども読書に関する事業を効果的に推進します。

〔具体的な取り組み〕

① 関係課と図書館の連携・協力

教育総務課・社会教育課・こども子育て課・こども支援課・公民館と連携・協力して、子どもの読書推進のための事業を展開します。

② 保育所・幼稚園・認定こども園、学校、放課後教室などと図書館の連携・協力

子どもが読書に関心を持ち、興味に応じた調べものができるなど、身近に本・読書に親しむことができるよう、関係機関への団体貸出を行います。

図書館の利用促進のため、図書館訪問の受け入れや「読書推進学校等訪問事業」などを通して、読書の楽しさを伝えます。

③ 司書教諭との連携・協力

図書館司書の学校図書館訪問などを通して、市内各学校の司書教諭と図書館が交流を深め、連携・協力して子どもの読書活動の推進を図ります。

④ 各図書館との連携・協力

道立図書館との連携及び根室管内の図書館と協力し、相互に子どもの読書活動推進についての情報を交換します。また、図書館司書の研修の機会を通して、子どもの読書活動の活性化を図ります。

2 推進体制の整備

子どもの自主的な読書活動を推進するためには、読書に関わる機関や団体などから幅広い意見を集め、相互に連携できる体制で取り組みを進めることが必要です。そのために、根室市図書館協議会などの意見を反映しながら、子ども読書活動への取り組みを進めます。

また、地域全体で子ども読書活動の推進に取り組むために、ボランティアと協力しながら、子どもの読書活動の充実を図ります。

〔具体的な取り組み〕

① 「根室市図書館協議会」との連携・推進

市民意見を反映させながら本計画を円滑に推進するため、「根室市図書館協議会」に計画の進捗・取組状況について報告し、意見を踏まえて計画を推進します。

② ボランティアとの連携・協力

子どもの読書活動を支えるボランティアの人材発掘及び育成を進めながら、各種イベントや読書関連事業をボランティアと連携・協力しながら実施します。



3 啓発・広報活動の推進

子どもに読書の楽しさを伝え、喜びを共有できる機会を増やすために、積極的に啓発活動を行っていきます。

子ども達が読書活動を行う意欲を高めるために、「子ども読書の日」や「読書週間」など、さまざまな機会に市民全体で気運が高まるような啓発・広報活動を展開します。

〔具体的な取り組み〕

① 「子ども読書の日」を中心とした「こどもの読書週間」の啓発・広報

子どもの読書活動についての関心と理解を深めるために、「子ども読書の日」（4月23日）にふさわしい関連事業を実施し、子どもの読書への関心を高めるための普及啓発を図ります。

② 各種情報の収集・提供

子どもの読書活動に関する情報の収集・提供に努めながら、他地域の読書活動や、ボランティア団体等の取り組みについての情報を提供し、読書活動に携わる人たちの意欲を高めます。

また、読書活動の意義や図書館資料などの情報について、啓発・広報を行い、子どもの読書活動を推進します。



